



災害救出を描いた絵画で最優秀賞 ～平成20年度土砂災害防止の作品コンクール

■県と国土交通省が実施する、「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文コンクール」で、永松冬弥君（枕崎中2年）が中学生絵画の部で見事最優秀賞を獲得しました。このコンクールは、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、その一環として次代を担う小中学生を対象に行われているもので、同部門には県内各地から45名の応募がありました。



永松君の絵は、災害時の救出作業を描いたもので、「こういった災害に遭ってほしくない」との思いが込められているということです。



おもてなしの心とやさしい笑顔で好印象を ～枕崎市観光協会接遇研修会

■市観光協会主催による接遇研修会が2月12日、地場産業振興センターで開催され、かつお公社やお魚センター、薩摩酒造などから約30人が参加しました。

講師にマナーアドバイザーの丸井ゆかりさんを迎えて、接客態度の重要性、あいさつの基本、言葉づかいなどの実践をとおして、観光客に対するおもてなしの心を育む研修会となりました。

のびのびと体全体を使って表現ダンス ～第21回枕崎市表現・ダンス発表会

■表現・ダンス発表会が2月20日、市民会館で開催され、市内の小・中学校から281名の児童生徒が出演し、創作ダンスなどを発表しました。

各学校がそれぞれのテーマについて、身体を思い切り使い、いきいきと表現。別府小1・2年生41名による「真夜中の動物園」（写真）では、静かな動物園で動物たちが楽しく遊びだす様子を元気いっぱい表現しました。講師の鹿児島女子短期大学・小松恵理子教授から、それぞれのダンスについて講評が行われ、もう少し工夫して欲しいところなど身振り手振りを交えてアドバイスしました。



本市出身の田畑庸祐選手が快走 ～県下一周市郡対抗駅伝競走大会

■第56回県下一周市郡対抗駅伝競走大会が2月14日から18日まで、県内全域を舞台に行われました。

初日は枕崎市を通過。第8中継所の市役所前（写真）にはたくさんの方がかけつけ、川辺チームへはもちろんだすきをつなげようと懸命に走りこんでくる選手たちに惜みない拍手が送られました。また、まくらざきハーモニーネットワークから茶節と腹皮のから揚げなどが振舞われ、走り終えた選手たちの労をねぎらいました。

盛大な応援に後押しされ、川辺チームは総合順位で4位と健闘し、本市出身の田畑庸祐選手（鹿児島国際大学2年）は3回の出走すべてで上位に入るなどチームに貢献しました。



60周年記念事業のスタートは晴天の植樹祭 ～瀬戸桜公園で市制施行60周年記念植樹祭

■枕崎市市制施行60周年記念植樹祭が2月15日、瀬戸桜公園で行われ、市民や関係者のほか金山小全校生徒30名で結成する「仙洞岡緑の少年団」も参加しました。

まず、学校環境緑化コンクールの伝達が行われ、別府中、金山小、桜山小が表彰されました。また、みどりの基金助成事業で購入した同少年団の新しい制服が披露されると、代表の沖園恵太君（5年）が「自然を大事にしながら、活動を楽しんでいこうという強い気持ちがありました」と、力強く感謝の言葉を述べました。

今回は、50周年の際に蔵多山に植樹した枝垂れ桜を移植したほか、ソメイヨシノ12本、レンギョウ10本を植樹。また、児童たちによりアジサイ20本も植えられました。



果汁たっぷり たんかんの季節になりました ～たんかんのはさみ入れ式

■平成20年産たんかんのはさみ入れ式が2月9日、東鹿籠にある瀬戸口末俊さんのハウスたんかん園で行われ、生産者をはじめJA関係者などが参加しました。

枕崎、大浦、笠沙、坊津の沿岸一帯は、県内本土の主産地。このたび、生産者でつくるJA南さつま果樹部会中晩相部会が「かごしまの農林水産物認証」を受け、この日、伝達式も行われました。今後さらに、平成21年度中に「かごしまブランド」の申請も行う予定です。

今年は天候不順で生育遅れが心配されましたが、果実肥大も良好で、生産者の栽培努力により平年どおりおいしいたんかんに仕上がったということです。



子ども、お年寄りたちが仲良くそばづくり ～岩崎公民館で高齢者と小中学生のふれあい活動

■岩崎公民館で2月11日、岩崎公民館老人クラブと小中学生のふれあいそばづくりが行われ、約80人が参加しました。この取り組みは、おじいさんやおばあさんと一緒に生活する子どもたちも少なくなった今、ふれあいを大切にしようという10年ほど前から毎年行われており、そばづくりのほかグラウンドゴルフや花壇の手入れなども一緒にやっているということです。

そばづくりは、終始にぎやかな雰囲気で行われ、子どもたちは粘土遊びの要領で楽しそうにそばをこねたり、女の子たちは積極的に包丁でそばを切ったりしました。できたそばは、みんなで一緒においしく食べました。



枕崎のシンボル立神岩に夕日が映える ～立神岩の写真を園田さんが寄贈

■本市岩崎出身で現在鹿児島市在住の園田千代子さんが2月2日、ご主人の晃朗さんと市役所を訪れ、立神岩の夕景を写した写真パネルを寄贈されました。

この写真は、12月12日に岩戸の堤防からフィルムカメラで撮影したもので、夕日が立神岩の隣に落ちる寸前のグラデーションと赤く染まった空が美しい写真です。

園田さんは、「この夕景が一番素晴らしい」と立神岩の夕日にこだわり、毎年10月から1月にかけて場所を移動しながら10回以上にわたり撮影をされたということです。いただいた写真は市役所に飾らせていただきます。